

平成30年度 介護の日 作文・写真コンクール作品集



茨城県知事賞
大瀧 清作 (ひより) 「希望の光」



茨城県老人福祉施設協議会長賞
知久 文乃 (四季の郷) 「長寿の診察、笑顔の薬」



茨城県介護福祉士会長賞
下澤 明美 (葛城デイ) 「笑顔の花が、はじけてる!!」



茨城県介護福祉士会長賞
清宮 学江 (セ・シボンかしま)
「イチゴ先生と勝利のバンザイ!」



審査委員長賞
吉澤 朋美 (やすらぎの里) 「天まで届け」



審査委員長賞
鴨志田 大 (いきり苑那珂) 「喜び満開」



情報委員会委員長賞
内田 稔 (かさまグリーンハウス)

「私、入職 5 ヶ月」 「私、入所 30 年!」



情報委員会委員長賞

楠見 達生 (ユアアイの家) 「おかわりっ!」



荻津 全典 (小美玉敬愛の杜)

「笑顔咲ク」



秋葉 達郎
(ケアステーション藤が原デイサービス)

「初めての稽古」



伊藤 義彦 (元気館)

「だまされたー」

はじめに

介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進することを目的として制定された「介護の日」(十一月十一日)の趣旨をふまえ、県では、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとするため、「介護の日」作文コンクールを実施しており、今年度で十回目となります。

今年度は皆様から一〇〇四作品もの多くの御応募をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

審査の結果、茨城県知事賞、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会会長賞、茨城県介護福祉士会長の各二作品の合計十二作品を選定いたしましたので、ここに受賞作品を御紹介します。

また、第十回目を迎えました写真コンクールは、特別養護老人ホーム等の介護施設・事業所で働いている介護職員などから、福祉・介護現場の感動、感激、喜びを伝える心温まる作品を募集して、応募された二〇七作品の中から、茨城県知事賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県介護福祉士会会長賞等に選定いたしました受賞作品を掲載しています。

目次

富田 拓希「介護の在り方について」……………	1
林 雅代「父との時間」……………	2
仙波 百花「見守る介護」……………	3
登藤 美和「1さんとの出会い そして…ありがとう」…	4
岡崎 祐花「介護体験をして感じたこと」…	5
齊藤 良子「利用者の笑顔と仲間に支えられて」…	6
小又 由依「私のおばあちゃん」……………	7
大木 裕子「介護から学んだこと」……………	8
川和田淳真「感謝の介護」……………	9
佐々 鈴音「相手の立場に立って考える」…	10
富田 翔吾「ありがとう」で全てが変わった」…	11
吉田 幸子「またね」……………	12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み……………	13
茨城県社会福祉協議会の取り組み……………	14
茨城県理学療法士会の取り組み……………	15
茨城県介護福祉士会の取り組み……………	16



又来 晴巳 (峰林荘)
「あいらいく いちご♪」



石井 利明 (渡里すずらん苑)
「お月さんと丸さくらべ」



小森 光江 (渡里すずらん苑)
「花にも勝る乙女達」



大内 要 (渡里すずらん苑)
「ほら つるつると!」



青木 慶恵 (玉樹)
「孫たちと」



渡 和美 (ぬくもり荘)
「未来の横綱と私」



木村 聡 (トランス田村)
「一期一会～実習最後に～」



園部 和子（渡里すずらん苑）

「又1つ年を重ねましたネ!!」

茨城県知事賞

介護の在り方について

僕は、生まれつき足が不自由で車イスでの生活を送っている。でも学校は、普通小を通って今では普通中学校に入学している。そこで僕が思う介護を紹介したい。

僕は、小学校に入る少し前に足の手術をした。三時間の手術だった。僕は全身麻酔をしたが最初の数分間、想像を絶する痛みにおそわれた。手術が終わり退院した時僕は、僕みたいな人がこれから先少なくなつてほしいと心から思った。

小学校に入学した時の僕は、恐怖心でいっぱいだった。軽蔑されたりイジメられるんじゃないかと思ひ、一年生の時は友達としゃべらなかつた。傷つく事を恐れて関わりを持たなかつた。でも僕は二年生の時、勇気を出して話しかけた。そこから僕の人生は変わった。

みんなは、優しくして普通に会話してくれた。僕にとつてそれは、いろいろな事を手伝つてくれる事やどんな事よりもうれしかった。心の底から救われた。それから僕は、積極的に話しかけて

たくさんの友達が出来た。

中学校での僕は、友達とサッカーや野球といったスポーツの話や、好きなゲームや好きなアニメの話をしたりして楽しんでいる。

僕の思う介護は、人の行動を手伝うという事ももちろん重要だが、その人の何を手伝つて何が手伝わなくて良いのか、その手加減を考える事が重要だと僕は思う。そして、その人の話を聞いて心に寄りそう事が一番重要な事だと思う。

今の日本は、介護の仕事に関しての関心が低いため、困っている人が多い。僕はこれから介護に関係する仕事に就いて、日本の介護に対する意識を変えさせて、どんな人も笑顔になれる様な社会を、そして人の心に寄りそう心の介護を社会に広げていきたいです。



岩瀬西中学校 一年生

富田 拓希



金井 智裕（愛和苑）

「華に囲まれて」

茨城県知事賞

父との時間

今から丁度一年前、私は父を看取った。

子どもたちが小さな頃は、共働きだった母を気遣い率先して台所に立ち、私たちのお弁当まで作るほど家族思いな一方、趣味も多く活動的だった父。五年前に母を亡くし独り暮らしになってからも炊事、洗濯、掃除など身の回りの事はきちんと自分でこなしていた。

そんな父が昨年始頃から腎臓を患い、体調を崩した。介護士として夜勤も担当していた私は、仕事をしつつ父の身の回りの世話をするため自宅と実家を往復する生活が半年ほど続いた。短い期間であったが、私は肉体的にも精神的にも追い詰められていった。

父の容体は日に日に悪くなり、姉たちと施設への入所も検討したが、相談の結果、父が愛した家で最期を過ごしてほしいという結論で意見が一致した。私は二か月間の休職を申し出て、父との最期の時間を過ごした。

食事管理や入浴、通院など忙しくはあったが、その間に父と交わす他愛もない会話が楽しく、何

より時間にも心にも余裕がある状態で父のそばに居られるということがうれしく、充実した時間を過ごすことができた。

しかし父の病状は一進一退を繰り返すばかりで、介護を続けるために退職を考えるようになったある日、父はあっさりと眠るように息を引き取った。長期戦を覚悟した矢先の出来事だったので、驚きや悲しみはもちろんあったが、好きだった介護の仕事が続けられることに対してほっとしたのも事実だった。亡くなる時まで娘たちのことを想ってくれていたのだろうかとすら思える最期だった。

自宅での父の看取りを通して、仕事では想像する外なかった家族の想いを実感することができた。これは介護士として働く私にとって、父からの最後の贈り物だと思っている。私は多くの人の協力で父を看取ることができた。今私にできることは、この想いを胸に留め、介護という仕事に精一杯向き合っていくことだと考えている。



特別養護老人ホーム 愛和苑
介護職員

林 雅代



山野 有紀 (いくり苑那珂デイサービスセンター)

「焦げるがなっ」

茨城県議会会議長賞

見守る介護

岩瀬西中学校 一年生

仙波 百花

私の祖父は五年前に脳出血で左片麻痺になり、それ以来、介護が必要です。

祖父は不自由な体になっても、穏やかで誰にでも優しく、私はそんな祖父が大好きです。だから、祖父には何でもしてあげたくて、歩くときはすぐに手を貸してあげたり、ペットボトルの蓋を開けてあげたり、とにかく頼まれる前にすぐに何でもやってあげました。家族もみんなそうです。優しい祖父を、家族みんなで助けてきました。

ある日、リハビリへ行く際に、祖母が祖父に靴をはかせてあげていました。それ見て、迎えに来て下さった施設の方が、

「いつもそうやって、何でもやってあげてるの？」

と、私に聞きました。私は自信満々に、

「家族みんなそうです。」

と、言うと、

「それじゃだめ。結果的におじいちゃんの為にはならないよ。自分で靴をはくのも、椅子から立

ち上がるのも、みんなおじいちゃんにとってはリハビリの一環なの。可哀想だと思って、つい手を貸したくなるけど、おじいちゃんにとっては、何でも自分で出来るようになるのが一番良い事なんだよ。」

と、言いました。

それを聞いて、私はハッとしました。今まで祖父に何でもやってあげて、自分がただそれで満足していただけだという事に気づき、とても恥ずかしい気持ちになりました。それと同時に、祖父にも申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

それから我が家では「助ける介護」だけでなく、祖父が自分で出来る事は手伝わす「見守る介護」を取り入れることにしました。

そのかいあってか、今では家の中を杖をついて歩いたり、自分で着替えも出来ます。それによって、祖父の笑顔が増えた事が何よりもうれしいです。



小林 若子（成華園デイサービスセンター）

「私のほっぺも・もっちもち♡」

茨城県議会 議長賞

Iさんとの出会い そして…ありがとう

私が初めて介護の仕事に就いた施設に、一〇五歳とご長寿な、Iさんが入所されておりました。明治、大正、昭和、平成と生きて来られただけあり、人にも自分にも大変厳しい方でした。リハビリを兼ねてタオルを四つに畳む作業も、率先して自分の日課にされる程働き者でした。四隅のシワを伸ばし、角と角をしっかりと合わせた仕上がりは、Iさんの性格そのもので、大変見事なものでした。仕事を始めた頃、Iさんの介助に関わろうとすると、「あんたはダメ。信用ないから。」と拒否され、その度に自信が無くなり辞めてしまいたくなる時もありました。

仕事を始めてから三か月が過ぎたある日、いつもの様に余裕が無く、バタバタと走り回っていると、「ちょっと！」とIさんに手まねきをされ、「何かご用ですか？」と伺うと、「あんた、いつも誰よりも一番頑張ってるね。あたしはいつも見てたんだよ。」と言われて、業務を覚える事ではないだった私は、Iさんに認めてもらえた事、い



特別養護老人ホーム 成華園
介護職員
登藤 美和

つも見ていてくれた事の嬉しさに、思わず涙が溢れてしまいました。そして、「辞めないでね。ずっとお世話してね。」と、私を抱きしめてくれました。この出来事から、人に認められ、頼りにされる事の喜びを感じ、一人でも多くの利用者様と関わって行きたいと思いました。

Iさんが一〇六歳を迎える頃、小さい時に父親に貰った手毬が宝物だった事を聞き、赤い熨斗模様の手毬をプレゼントしました。Iさんは「毎日撫でるね。大切にするね。」と頬ずりしては笑顔を見せてくれていたのに、一〇七歳を迎える事なく逝ってしまいました。

Iさんのお姿はとても穏やかで、人生を生き抜いた誇りに満ちた最後でした。介護の素晴らしさを教えてくれたIさんに、これからも頑張つて続けて行く事を約束しました。

私は、与えられた命を精一杯生き抜く意味と、生きる喜びを伝えられる様な介護を目指していきたいです。



大久保 萌 (デイサービスセンター じゅげむ)
「じいちゃん、あそぼっ♪」

茨城県老人福祉施設協議会長賞

介護体験をして感じたこと

今までは「介護」と聞くと、大変そうで、とても私にはできないと思っていました。

私の祖父は、体が不自由で普通に歩くことができまませんでした。移動するときは、転んでケガをしないように、サポートをしていました。お風呂に入る時も、着替えるときも介護が必要でした。また、透析をしていたので、食べ物や飲み物の制限があり、献立にも気を遣っていました。そういうところを何度も見ていたので、どう対応したらいいのか不安で、何もできませんでした。

そんな私が、今年の六月に介護体験をしました。学校で認知症サポーター養成講座を受けて高齢者への関わりを学習し、地域の介護施設で一日体験をしました。最初は、私に何ができるのだろうと不安ばかりでした。しかし、介護施設の方のアドバイスを受けて、食事を運んだり、一緒にお話をしたり、輪投げをしたりしたときに、どんな小さなことでも「ありがとう。」と言って喜んでくれました。すると、だんだんと不安もなくな

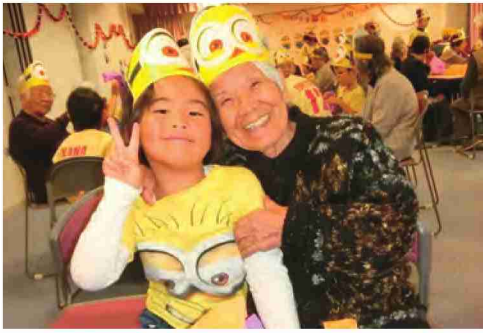


山方中学校 一年生

岡崎 祐花

り、自分から話しかけたり輪投げのサポートをしたりするようになりました。最初よりも自然に高齢者の方に接することができました。それまで「介護」は難しくて大変なものと思っていましたが、介護体験を通して小さなことでも役に立つということを実感しました。

今思えば、祖父も学校での様子を話したり、誕生日に小物を作ってあげたりしたときに、「ありがとう。」と言って、とても喜んでくれました。祖父の笑顔で、私自身もとてもうれしくなりました。小さなことでも役に立っていたんだなあと思います。祖父はもう亡くなってしまいましたが、生きているときに私でもできることがたくさんあったのではないかと後悔しています。直接体を支えたりしなくても、歩きやすく周りの物を片付けたり、一緒にもっと話をしたり、介護をしていた祖母の仕事を手伝ったりと自分ができることをするのも「介護」だと改めて思いました。



桐原 ひさ江 (ケアハウスハートピア水戸)
「かわいいミニオンズ」

茨城県老人福祉施設協議会長賞

利用者の笑顔と 仲間を支えられて

私は、老人保健施設に十七年間勤め、ユニット型特別養護老人ホームに転職し、一年が経ちました。しかし、十八年間は決して順風満帆だったわけではありませんでした。人間関係で悩み、仕事内容が思った以上にきつく辛く感じ、年齢的にも体力の限界を感じた事もありました。自分には「介護職は向いていないのではないか・・・」と、何度も辞めようと思った時期もありました。この十八年間で振り返ってみると辛い事ばかりではなかったように思います。悩みを相談できる同僚、仕事が忙しく大変な時でも皆で励まし合い協力しながら、沢山の経験をすることが出来たからです。また何かを成し遂げた時の達成感や楽しさ、入居者の喜びや感動された時の涙、そして一人一人の笑顔を見るとやりがいを感じます。このような経験を通じ、「介護の仕事をやっていて良かった。」と思うようになりました。その中でも、私にとって一番嬉しかった言葉があります。入居者から「ありがとう。」と伝えて下さった感謝の言



特別養護老人ホーム
セ・シボンかしま
介護職員

齊藤 良子

葉です。この言葉には、何度も心が救われました。入居者の笑顔や言葉、私を支えてくれている仲間がいたからこそ、自分も成長し、ここまで頑張ることができたと思います。

今後、また大きな壁にぶつかり、逃げ出したいと思う事があるかも知れませんが、しかし、これからは信頼のおけるユニットの仲間とユニット理念である「利用者様には楽しみを。ご家族様には安心を。」を心に置き、入居者一人一人の笑顔を大切にしていきたいと思えます。また、素晴らしい仲間に出会えたことに感謝して勤務していきたいと思えます。



矢口 みち子 (やすらぎの園)
「食べ頃見つけた!」

茨城県社会福祉協議会長賞

私のおばあちゃん

祖母は、一年半前から特別養護老人ホームに入所している。五年前に認知症になり、体は徐々に硬くなり、ついに寝たきりになってしまった。今では介護なしでは生きられない。

孫の私のことも分からない日も多い。私が祖母に会いに行った時に祖母の様子が明るければ、私はとてもうれしいけれど、機嫌が悪ければ寂しい気持ちになる。なぜなら祖母は、とても元気で活発でいつも一緒に遊んでくれる優しいおばあちゃんだったからだ。なのに、だんだん笑顔が少なくなってしまう。私は、祖母の気分がよくなるように、手足をマッサージすることしかできない。すると祖母は、泣いてしまう時がある。「ありがとう」と言ってくれているみたいに。

祖母が認知症になったのは、東日本大震災がきっかけだ。多分祖母は大きなショックを受けたのだろう。様子がおかしいことに母が気づいた。病院で受診し、安心できるほどの問診や検査を受けて、「レビー小体型認知症」の診断を受けた。



河原子中学校 二年生

小又 由依

祖母は祖父と二人暮らしで、昼は施設に通い、家では看護師さん達にも支えられ、夜は母も行つて、家での生活を頑張った。それは祖父ができるだけ祖母と一緒に生活したいという思いから。でも、やはり大変なことも多かったと思う。トイレに座らせるのも、ご飯を食べさせるのも。見えないものが見えてしまう「せん妄」の症状も沢山あつて、介護する祖父も大変そうだった。母も夜中に家に行くことも多かった。

それで、家族の負担を軽くして祖母との時間を多くできるように、老人ホームに入ったのだ。ホームの方は祖母にとっても親切にしてくれるので、祖母も体重が大分増えたし、前よりも笑顔も増えた気がする。

私は、できるだけ祖母に会いに行っている。今まで私を面倒みてくれたから、今度は私が、祖母の面倒をみてあげたい。そして、元気になってほしいし、笑顔もみたいから。



小玉 幸美（縦山会）
「空も飛べるかな？」

茨城県社会福祉協議会長賞

介護から学んだこと

私は、五十才半ばで介護の仕事を始めました。介護学校で介護の基本を学んで、ある程度の自信は有ったのですが、実際に介護の現場で働き始めてみると、学校で学んだ事は何だったのかと思える程、とまどう事の連続でした。私は自信をなくして、本当にこれから介護の仕事を続けていけるんだろうかと思ひ悩む日々が続く、本来は楽天的な性格であるはずの自分から笑顔がなくなってきました。

そんな時、利用者Aさんに出会いました。

Aさんは車椅子を使っていて、言葉もあまり話せません。介護職に就いたばかりの私には荷が重い利用者さんでしたが、食事や排泄のたびに私を呼ぶのです。私は最初は嫌で嫌でたまりませんでした。指名するのですか？」と聞いてみたところ、自由な言葉で「あなたには何でも頼みやすいんだよ」と言ってくれたのです。その時、こんな私でも頼ってくれる人がいるんだと思ひ、これからも



特別養護老人ホーム 東野の家
介護職員
大木 裕子

介護の仕事を続けていこうと決心しました。それから月日がたち私は異動で違う部署に移りました。異動して数週間が過ぎたある日、前の職場で交流のあった利用者さんが、体が不自由にもかかわらず、押し車を押し私に会いに来てくれたのです。娘を心配する母親の様なその姿を見て、私は涙をこらえきれませんでした。

私にとって介護は一方的に与えるものではありません。利用者さんから頂く物の方がはるかに多いのです。利用者さんのやさしさや思いやり、長い人生を生きてきた豊富な知識が、私を成長させてくれるし、私の働くエネルギー源になっています。

人は誰でも本当は家族と一緒に暮らしたいと思っているはずですが、でも色々な事情で一緒に暮らせない現実がある以上、私は利用者さんに対して家族の様に接していきたいと思っています。利用者さんの笑顔を見るのが、私には何よりの喜びですから。



塚本 大介（ユーアイの家）
「鬼も内」



茨城県理学療法士会会長賞

感謝の介護

「ありがとうございます。お世話さん。」

二年前に亡くなった祖母は、いつも家族に感謝していた。

ぼくは初めて車イスを押した時のことを覚えている。押せばいいと安易に考えていた。いざ進もうとしたら、祖母の足をペダルに乗せ忘れそうになったり、ストッパーを忘れそうになったり、やってみないとわからないことに気付く。

母は仕事のかたわら、夜は祖母の所に泊まってトイレに付きそったり、むくんだ手足をさすったりしていた。母は祖母の話しを聞いていることが多く、時には笑い声もした。

「じいちゃんのみそ汁は最高においしい。」

祖母にほめられ祖父は、毎朝だしを二回に分けて取っているというみそ汁作りに精を出した。おばは風呂を手伝ったり、食事担当。通院には祖母の姉や妹であるおばさんが手伝った。ぼくは、みんなどうしてがんばれるのか、たいへんじゃないのかと思っていた。



常北中学校 一年生

川和田 淳真

「こうして働き続けられるのも、全部ばあちゃんのおかげ。あんたたちも、熱の時、毎日のおやつのお支度。たくさん世話になったでしょ。誰でも年は取るんだから、今できることを、やれる人がすればいい。ばあちゃんには、本当にお世話さまだよ。」

母は言う。その思いは祖父やおばも同じで、祖母が少しでも気持ちよく生活できるように、必死だった。父やぼくたち兄弟は、風呂そうじや米研ぎをして、出来る限り協力した。

今、社会では労働力不足が深刻だ。人工知能が活躍するだろう。科学技術は日進月歩だ。一方、相手を思いながらの介護や、少しでも病気を忘れられるような会話を楽しむことは人と人との関わりなのではないだろうか。

もうじきお盆。お墓をきれいにして、祖母に話しかける。

「ばあちゃん、お帰り。そしてありがとう。」



神子島 喜美子 (久慈川荘)

「願い。」

茨城県理学療法士会会長賞

相手の立場に立って考える

無資格の私が最初に勤務した施設は、グループホームでした。事前見学させて頂いたので、雰囲気は分かっていたつもりでしたが、実際に勤務してみると、自分のイメージと少し違っていました。数人の職員で十人の利用者様の生活支援をする事は大変でした。落ち着かない方、「家にかえりますから」と荷物を持つ方、部屋で探し物をし「誰かに取られた」と不安になる方、会話の途中で泣き出す方などに接し、「安心して下さい。大丈夫です」と私は繰り返し声をかけることしかできませんでした。今、振り返ってみると、知らない場所、知らない人に大丈夫と言われても利用者様は安心できなかったと思います。そんな時、先輩職員より、「相手の立場に立って、本当に考えられていけば、思い込みはなくなるよ」とアドバイスを受けました。介護の仕事をしていると、「何か手伝ってあげたい」「安心して欲しい」と思ってしまうます。一人にして欲しい時もあるかもしれない。大丈夫という言葉よりも「心配です

よね」と一緒に気持ちに寄り添ったほうが良かったのかもしれないと思います。

無資格で始めた介護の仕事も5年目を迎えました。毎日、楽しく、今でも学ぶことや気付かされることが多くあります。また介護の仕事には正解がなく、悩むことが多いです。それでも、自分で悩み、気付き、次の支援に活かしていき、利用者様と向き合うことが、何より大切だと思います。相手の立場になって考える事は、介護だけでなく、人と接する上で必要なことだと思います。誰に対しても相手の立場に立って考える姿勢を忘れずに持ち続けていきたいと思っています。



特別養護老人ホーム
セ・シボンかしま
介護職員

佐々 鈴音



安島 賢太郎 (いきり苑那珂)

「お父さんもう一杯」

茨城県介護福祉士会長賞

「ありがとう」で 全てが変わった

毎朝学校へ行く時に、老人ホームの前を通る。そこでは、老人ホームの方がお年寄りの手を取りながら歩いていたり、車いすを押してあげたりしている。いわゆる「介護」というやつだ。そんなめんどくさいこと僕はできるだろうか。

僕には、認知症のおばあちゃんがいる。僕が小学生の頃は元気だったのだが、中学生になったと同時に、僕のおばあちゃんは認知症になってしまった。それからは、おばあちゃんの家遊びに行くと、お父さんやお母さんが介護するのが当たり前になっていった。お父さんに、介護しなさいと言われていたこともあったが僕は、めんどくさいと考えていたので、もちろん介護なんてしなかった。そんなことより、ゲームをしている方が楽しいから。

介護に対する考えが変わったのは、中二の夏休みだった。おばあちゃんと暮らしていたおじいちゃんが体調をくずしてしまい、おばあちゃんを介護する人がいなくなってしまう。その日は平

日だったので、お父さんとお母さんは仕事があり、僕がおばあちゃんの介護をしに行かなくてはならなかった。それは、想像していたよりもはるかに大変なことだった。服を着替えさせてあげたり、ご飯を作ってあげたり、とても疲れる仕事ばかりだった。

しかし、帰る時に見せたおばあちゃん的笑顔で全てが変わった。今まで見たこともないような笑顔で

「ありがとう。」

と言われた。とてもいい気分だった。人のために働くとは、すばらしい事だと初めて知った。

今は中三となり、地域のボランティア活動などに進んで参加している。介護なんてめんどくさいと思っていた自分が、とても恥ずかしく思う。もし、僕と同じように介護なんてめんどくさいと思っている人がいるなら、この作文を通して分かっただらいい。人のために働く事が、とてもすばらしい事なんだと。



岩瀬西中学校 三年生

富田 翔吾



工藤 晋 (盲老人 ホームナザレ園)

「必殺スイカ割人」

茨城県介護福祉士会長賞

またね

緩やかな坂を下ると一面の田園が広がり、トトロの森を思わせる森の奥には「どん」と筑波山が構えている。長い冬の後、春は桜。夏は手を伸ばせばつかまえられる入道雲。初秋は黄金の稲穂が垂れて晩秋には澄んだ青い空。紅葉。私は息をのむ絶景を七年めぐり眺めてきた。私は在宅介護ヘルパーをしていてこの風景をこれから向かう利用者にもう一度見せてあげたいと思う。このおばあちゃんは私と初対面の時に、

「だんだん目が悪くなりどこにも外出できない。今まで苦労ばかりだったよ。」と。

私は一瞬迷ったが、

「これから交代でサービスに入るから一緒に私達と生きて行きましょうよ。」と。

向こうは不機嫌な顔をしていた。

私はこのおばあちゃんとの出会いに運命的な物を感じていた。半世紀の歳月が流れて、すっかり忘れていたが、私が小学生の時、全盲の祖母と暮らした。当時家族も病気の知識をなく「緑内障」の病気ですでに手遅れ。一夜にして光を失った。その後、家族全員の介助が始まった。昔の古



筑西市 介護職員

吉田 幸子

い農家の段差、食事、入浴、移動は祖母から目が離せなかった。外出もほとんど出来なかった。一年位経つと、祖母も慣れて、私が学校から帰るといつも縁側で、ラジオを聞いていた。時々私が元気がないとすぐに察知して「学校で何かあったのけ？」と親身に話を聞いてくれた。次の朝はケロリとして学校に走って行ったものだ。いつも私のそばにいてくれた。祖母が亡くなり、何もしてくれなわけでもないが祖母の存在は大きかった。サービスに入るおばあちゃんも月日が経つと気むずかしさも和らぎ表情も明るくなった。「皆さんに助けてもらい生かされた命に感謝。今は皆に会えて幸せだ」と。

最近私達に、労いの言葉もかけてくれる。

「気をつけて帰んなよ。」と飾らない言葉で「またね」とおばあちゃん。私も「またね」とかえす。

祖母もほんのりと私の心に明かりを残した様に今度は私が誰かにほんのりでもいい。明かりをともし番です。晩秋の夕ぐれに「またね！」と声かひびく。

入場
無料

いばらき 介護フェス 2018

IBARAKI KAIGO FESTIVAL

映画に、ライブに
VR体験！
日々進化する
介護の仕事
楽しく学ぼう！

／ 介護の日 ／

2018年11月11日 (SUN)

時間 10:00～17:00 会場 茨城県総合福祉会館



13:00～14:50

新人介護福祉士と施設の人々が織り成す
心温まる感動ストーリー。

ケアニン

～あなたでよかった～

上映会

MOVIE

全国30ヶ所もの介護福祉施設や専門学校、
関連団体に取材協力いただき、介護という
仕事を通して働くことの意味や、人と人、地
域との繋がりやの尊さを描いた、心温まる感動
ストーリー。

<http://www.care-movie.com>

ケアニン 検索

上映後に
開催!

14:50～15:50 トークセッション

監督

鈴木 浩介

脚本家

藤村 磨実也

TALK

10:15～12:00 3階 多目的ホール

ワークショップ

powered by

(株)Join for kaigo 取締役 野沢悠介氏

介護現場で働く

私たちの想いを形にします!

WORKSHOP



10:10～17:00

1階ギャラリー

ここまで進化した! 介護の未来のカタチ!!

介護機器・ 食品展示ブース



LIVE

10:15～10:45

水戸市出身 シンガーソングライター
いきいき茨城ゆめ国体 イメージソング
「そして未来へ」歌唱

磯山 純さんライブ



1回目

10:30～12:00

2回目

12:45～14:15

4階 小研修室

VR

認知症の方の視点を学ぶ

VR認知症体験

VRを使って、認知症の方の視点に立ち、
認知症を深く理解し、認知症になっても
自分らしく生きるポイントを探してみませんか?



10:50～11:50 (表彰式)

作文・写真コンクール 表彰式&入選作品の展示

多数の応募作品の中から

採用マスコット 結果発表

◎主催 茨城県老人福祉施設協議会 いばらき介護フェス2018実行委員会
◎お問い合わせ先 TEL.029-241-8529

茨城県老人福祉施設協議会

検索



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 水戸市千波町1918 県総合福祉会館 3階

TEL 029 (241) 8529 FAX 029 (241) 4456 <http://www.jsibaraki.jp>

茨城県社会福祉協議会(茨城県福祉人材センター)の取り組み

福祉の仕事に就きたい人と人材を求めている施設・事業所をつなぎます！

茨城県福祉人材センターは、福祉事業従事者の確保を目的に、社会福祉法に位置づけられた機関で、茨城県から茨城県社会福祉協議会が委託を受けて運営しています。

参加しよう！



ふくし職働(しょくどう)

福祉の職場に就職を希望する方や社会福祉事業に従事している方を対象に、福祉・介護の仕事に生かせる実践的な講座を開催しています。

参加無料。「暮れ六つ講座」、「気になる講座」、「おひさま講座」は事前予約制です。

■暮れ六つ講座(原則第2火曜日18:00~20:00)
就職活動や、福祉の仕事に従事する際に生かせる実践的な講座

■夕暮れしゃべり場(原則第1・3水曜日18:00~20:00)
福祉の仕事に従事している方、また就職を希望する方等、誰でも自由に語り合えるサロン

■仕事とところの相談(夕暮れしゃべり場と同日15:00~18:00)
就職や仕事に関する不安なところのケアを、専門家が対応します

■木になる講座(原則第4木曜日13:30~15:30)
就職活動や福祉の仕事に従事する際に、まさに「気になる」テーマを題材とした講座

■おひさま講座(原則第3金曜日13:30~15:30)
昼間開催する就職活動に生かせる実践的な講座



※詳細については、問合せください。

体験しよう！



職場体験

福祉現場を体験する機会として「職場体験事業」を行っています。対象:中学生以上参加無料。体験日及び体験先は、体験希望者と調整の上、決定します。

体験先 (高齢者分野)	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、老人デイサービスセンター、グループホームほか
体験内容 (例)	各施設・事業所が用意する体験プログラム 利用者の介護・介助、作業補助、利用者との交流など

働こう！



無料職業紹介

福祉人材センターに求職登録された方には、就職を希望の事業所などへの職業紹介・あっ旋を無料で行います。

福祉の仕事に興味や関心のある方はご相談ください。

- 無料職業紹介
- 福祉の就職総合フェア・就職相談会
- 福祉の職場説明会(就職ガイダンス) など



社会福祉法人茨城県社会福祉協議会 茨城県福祉人材センター

〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館2F

TEL029-244-4544(福祉人材センター 平日9:00~17:00) FAX029-244-4543

URL:<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/> E-mail:ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp



公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

理学療法を通じて
県民の保健・医療・福祉の増進
と自立生活支援に寄与する事業
を実施します。

★北茨城地域自立支援センター

- 住み慣れたまちで誰もが安心して暮らし続けられるよう、リハビリテーションの立場から保健・医療・介護・福祉・教育・就労の更なる連携推進をお手伝い致します。
- 理学療法士が駐在（平日12時～18時）し、より良い在宅生活の構築に関する相談を受け付けています。
- 北茨城市や関係機関・団体とともに地域包括ケアシステム構築に協力しています。

【相談事例】

- 退院・退所後のご自宅での自立した生活方法、住宅改修のアドバイス
- 訪問リハビリテーションを受けたい
- 職業性腰痛、介護方法等に関する勉強会の講師依頼
- 障がい児・者や家族からの在宅生活に関する相談 など

【実践活動事例】

- 入院中の退院調整会議や地域ケア会議への参加
- ケアマネジャーや訪問看護師等と同行訪問
- 介護予防事業や通所サービス事業所での個別・集団対応 など

〒319-1559 茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6
北茨城市コミュニティケア総合センター元気ステーション内
TEL：0293-44-3616



★筑西地域自立支援センター リハビリ相談・自立支援の拠点を目指します。

〒308-0816
筑西市徳持 433-3（ヒロサワ・シティ内）
TEL：0296-25-1135

★介護予防キャラバン

県民の皆様が生き生きと健やかに過ごせるよう、自らの心身機能や活動に対する意識づけや啓発を目的として、体力測定に基づく助言や様々なニーズに対して、理学療法士が相談を受け実施します。

【今年度実施・予定】

- 「まちの保健室」事業（茨城県看護協会）
- 北茨城市・東海村・笠間市・神栖市・土浦市・つくば市・利根町・下妻市・古河市
「日本理学療法士協会全国一斉介護予防・健康増進キャンペーン シルバーリハビリ体操フェスティバル事業」
- 古河市「古河ふれあい広場2018」
- ひたちなか市「健康づくりキャンペーン」（茨城県）
- ひたちなか市「健康スポーツフェスティバル」
- 筑西市「みんなの生活展」

★シルバーリハビリ体操の普及推進

茨城県では、茨城県立健康プラザや市町村の主催する講習会を修了した「シルバーリハビリ体操指導士」による住民主体の介護予防事業が広く行われています。日本理学療法士協会ならび茨城県理学療法士会では、誰もが気軽に取り組むことができ、介護予防と健康増進に高い効果が認められる「シルバーリハビリ体操指導士養成事業」の普及ならびに「シルバーリハビリ体操指導士」の皆様の活動を応援しています。



県内44市町村と協働して上記の事業を市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会
〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35（茨城県保健衛生会館内）
TEL：029-353-8474（直通） FAX：029-353-8475
ホームページ：http://www.pt-ibaraki.jp/



一般社団法人 茨城県介護福祉士会
Ibaraki Association of Certified Care Workers

茨城を福祉の最先端に！ 介護福祉士のネットワークで

こんな活動をしています！

介護福祉士のスキルアップをサポート・研修会、勉強会の開催

最新の動向・情報の提供

社会的地位向上への取り組み

医療的行為等へ対応できる日本介護福祉士会会員のみ入れる保険「安心三重奏」

◇主な活動内容

シーティングの基礎を学び拘縮を予防

マナー研修 & 利用者に寄り添う介護技術

介護職員等によるたんの吸引等実施研修

介護職種 of 技能実習指導員講習

介護福祉士実習指導者講習会

入会方法

入会申込書に必要事項をご記入の上、茨城介護福祉士会に送付してください。茨城県の会員になりますと日本介護福祉士会の会員に同時になります。

日本介護福祉士会

入会金 5,000円

年会費 3,000円

茨城県介護福祉士会

年会費 3,000円

※ご不明な点は事務局へお問合せください。

◇役員紹介



会長 森 久紀

医療法人 博仁会

当会は会員の皆様の、国家資格取得後の自己研鑽の為の研修・処遇改善の取り組み等様々な活動を行っています。

また、日夜頑張っている皆様の声を国や関係機関へしっかりと届けるという使命を担っています。

皆様の声を具現化していくためには、介護福祉士の仲間が一人でも多く必要です。是非入会して活動に参加してください。



副会長 井手 実和

有限会社 幸

介護福祉士の専門性の向上の為、充実の講師陣で皆さんをバックアップします。

また、地域や事業所の困り事の解決等、所属団体の垣根を越えて一緒に活動しましょう。



副会長 伊藤 浩一

社会福祉法人 北養会

仲間づくりできてますか？ せっかくの仲間ですから、楽しくつながって情報交換や友達づくりをしましょう。一人で悩んでいることも解決できるかもしれませんよ。400名を超える仲間と待ってます！

◇お問合せ

一般社団法人茨城県介護福祉士会 事務局

事務局 / 〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地 (茨城県総合福祉会館5階)

TEL: 029-353-7244 (月・木曜日のみ) FAX: 029-353-7246



茨城県

茨城県保健福祉部健康長寿福祉課

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3321



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529